

結果の概要

1 人口

(1) 総人口の推移 ～過去60年間に120万人増加～

昭和55年10月1日国勢調査による茨城県の総人口は2,557,903人である。

大正9年の第1回国勢調査での本県人口は1,350,400人であり、それから60年間に倍率で1.9倍、約120万人増えている。

人口の推移をみると、第1回国勢調査が行われた大正9年以降増え続けたが、昭和30～35年にかけて一時減少したもののその後再び増加に転じて、昭和45～55年の年平均人口増加率は1.8%で、同期の全国平均1.1%を0.7ポイント上回る。昭和56年1月1日現在における本県推計人口は2,566,077人となった。

なお本県人口の全国人口に占める割合は2.2%で、全国都道府県中12番目(前回14番目)に位置している。また面積は6,089平方キロメートルで24位であるが、人口密度は1平方キロメートル当り420人で全国平均人口密度314人をかなり上回り、全国13位(前回13位)となっている。 参照 統計表第1表 参考資料第8表

図4. 人口と増加数の推移

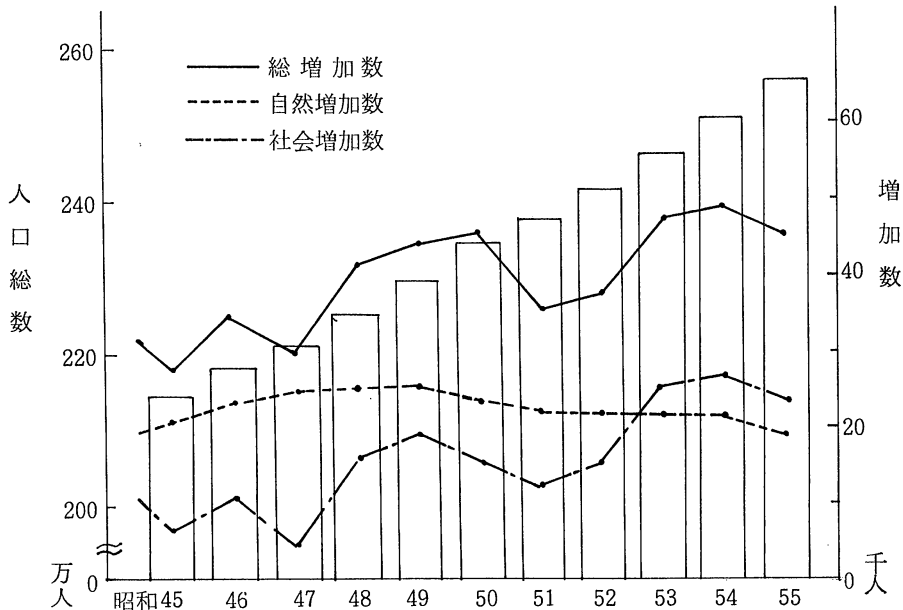
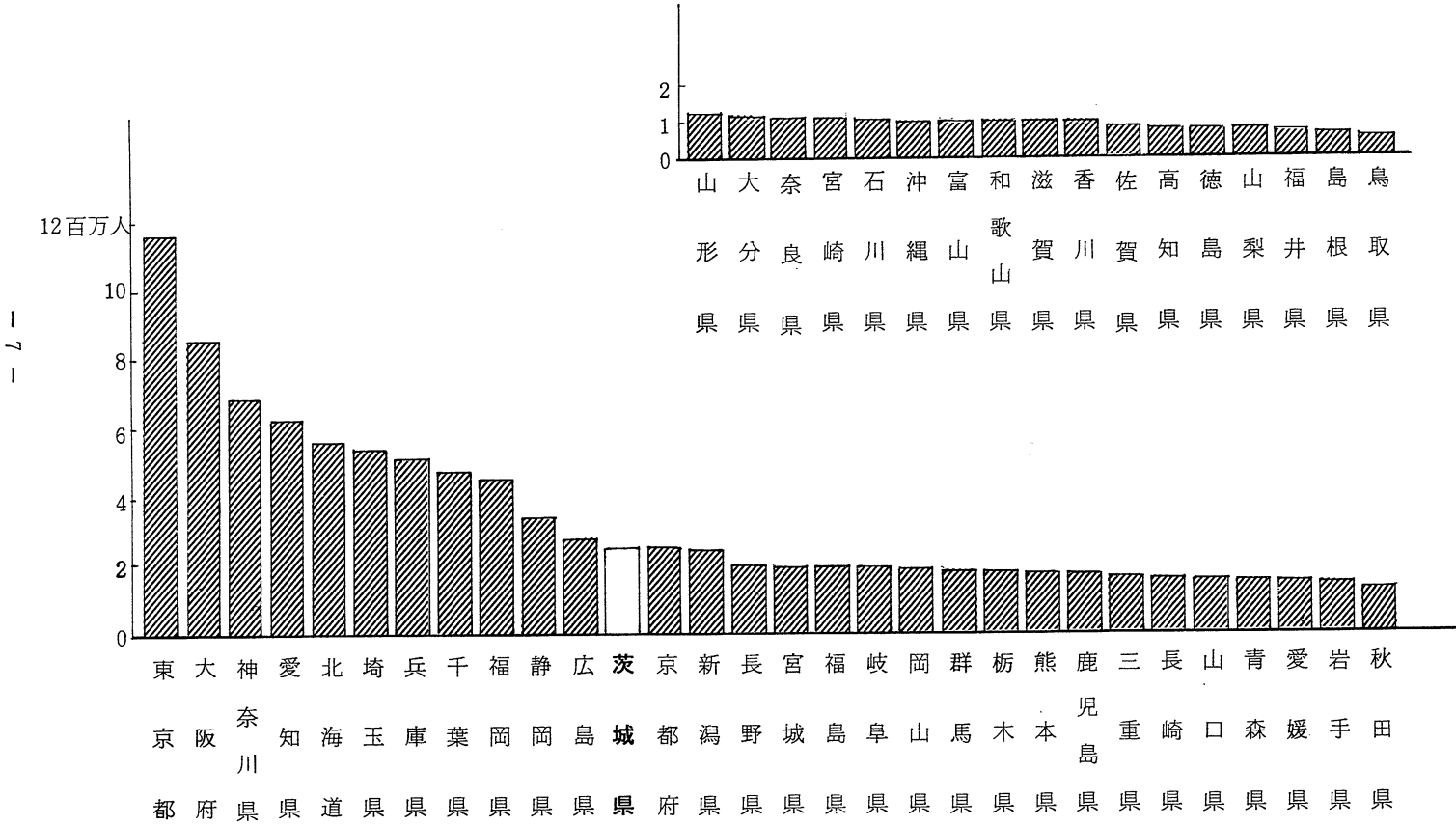


図 5. 都道府県別人口（昭和 5 5. 1 0. 1 国勢調査）



(2) 昭和55年の人口

ア 人口の概要 ～増加数前年に比べ低下～

昭和56年1月1日現在の本県人口は2,566,077人(男1,276,311人,女1,289,766人)となり,55年1年間における人口増加は42,869人(注)増加率は1.8%で,前年の増加率(2.0%)より0.2ポイント低下している。

55年中の人口増加は1日当たり117人である。

増加の内訳をみると,自然増加18,976人(増加率0.8%),社会増加23,703人(増加率0.9%)であり,社会増加が55.3%(前年55.6%)を占め,53年以来社会増加が自然増加を上回っている。なお増加数の対前年比では自然動態で2,382人,社会動態で2,993人の減少となった。

市町村別に人口増加数をみると,増加したのは15市54町村で,減少は3市20町村であった。増加市町村では桜村の3,337人(前年6,263人)が最も多く,以下牛久町3,313人(前年3,097人),取手市3,213人(前年3,756人),水戸市2,844人(前年3,756人),利根町2,685人(前年1,738人)の順となり,一方減少した市町村は大子町3,533人(前年2,511人),笠間市1,622人(前年62人増),大洗町1,491人(前年8人),金砂郷村1,451人(前年1,141人),水府村1,222人(前年2,777人)の順となっている。

なお外国人は前年に比べて190人増えて総数5,145人となっている。

(注) 55年中の人口増加数は,毎月の移動報告に基づく集計結果では42,869人であるが,55年10月1日の国勢調査結果に基づいて修正すると45,337人となる。

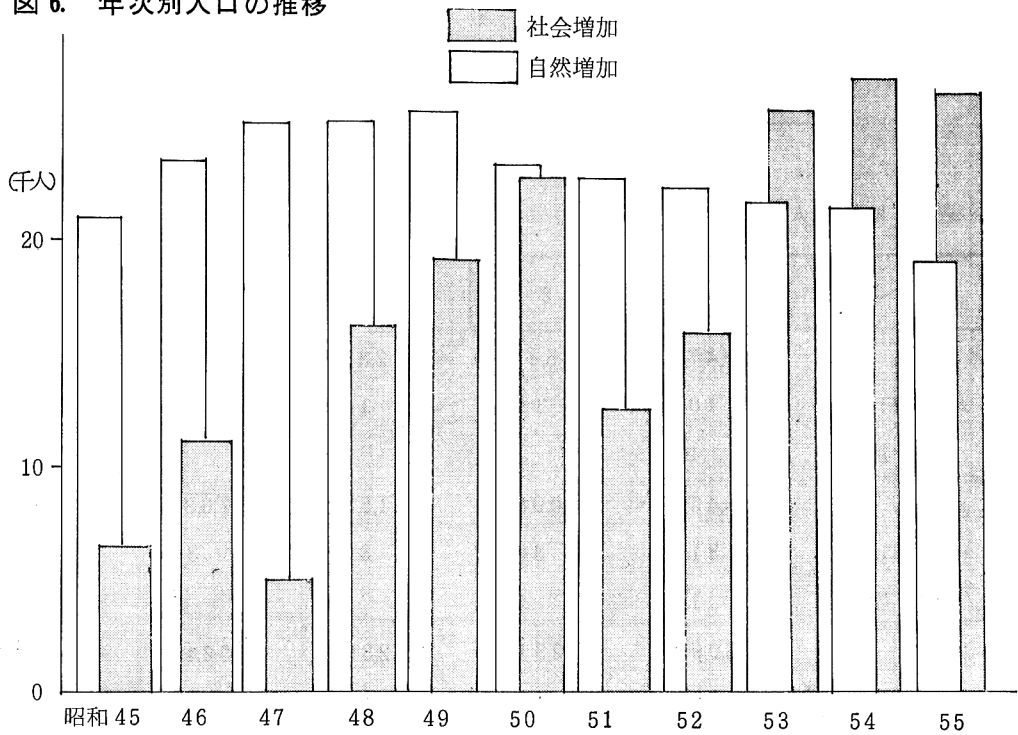
参 照 統計表 第5表

表1. 人口の推移

年次	総人口	増加数	増加率
51	2,387,470人	35,273人	1.5%
52	2,425,327	37,857	1.6
53	2,472,359	47,632	1.9
54	2,520,740	48,381	2.0
55	2,566,077	45,337	1.8

※各年12月末日現在推計人口

図 6. 年次別人口の推移



イ 地域別人口 ～高水準を保つ県南人口増～

本県を5地域に分けた人口分布を昭和56年1月1日現在でみると、県北平担が778,615人で本県総人口の3.03%を占め、次いで県南723,193人(28.2%)、県西520,173人(20.3%)、県北山間305,126人(11.9%)、鹿行238,970人(9.3%)の順となっている。

55年中の人口増加を地域別にみると、県南が26,456人、増加率3.8%(前年31,225人、4.7%)、県北平担7,308人、増加率0.9%(前年9,063人、1.2%)、県西5,791人、増加率1.1%(前年5,781人、1.1%)、鹿行3,033人、増加率1.3%(前年1,908人、0.8%)、県北山間281人、増加率0.1%(前年77人、0.0%)となり、前年大巾に伸びた県南は対前年比4,764人、増加率で0.9ポイントの低下を示しているが依然として高水準を保つ人口増加となっている。

これを自然、社会動態別にみると、自然増では県北平担の増加率0.9%(6,569人)、鹿行0.9%(2,154人)、県南0.8%(5,493人)、県西0.7%(3,825人)、県北山間0.3%(935人)となり、また社会増では県南3.0%(20,726人)と県全体の社会増加数23,703人に対し87.4%を占めているが、他の地域は県西0.4%(1,942人)、

鹿行0.4%(886人), 県北平担0.1%(792人)となり, 県北山間は0.1%(643人)の減少となっている。

参 照

統計表 第5表

表2. 地域別人口の推移

(単位:人:%)

年次		5 1	5 2	5 3	5 4	5 5
県	総 数	2,387,470	2,425,327	2,472,359	2,520,740	2,566,077
	人口分布	100	100	100	100	100
	増 加 率	1.5	1.6	1.9	2.0	1.8
県北平担	総 数	740,456	750,950	761,588	770,804	778,615
	人口分布	31.0	30.9	30.8	30.6	30.3
	増 加 率	1.3	1.4	1.4	1.0	0.9
県北山間	総 数	302,098	302,315	302,395	302,461	305,126
	人口分布	12.6	12.5	12.2	12.0	11.9
	増 加 率	0.2	0.1	0.0	0.0	0.1
鹿行	総 数	230,578	232,548	234,778	236,700	238,970
	人口分布	9.7	9.6	9.5	9.4	9.3
	増 加 率	1.0	0.8	1.0	0.8	1.3
県南	総 数	617,980	637,210	664,632	695,983	723,193
	人口分布	25.9	26.3	26.9	27.6	28.2
	増 加 率	2.7	3.0	4.2	4.7	3.8
県西	総 数	496,358	502,304	508,966	514,792	520,173
	人口分布	20.8	20.7	20.6	20.4	20.3
	増 加 率	1.2	1.2	1.3	1.1	1.1

※各年12月末日現在推計人口

図7. 地域別人口の推移

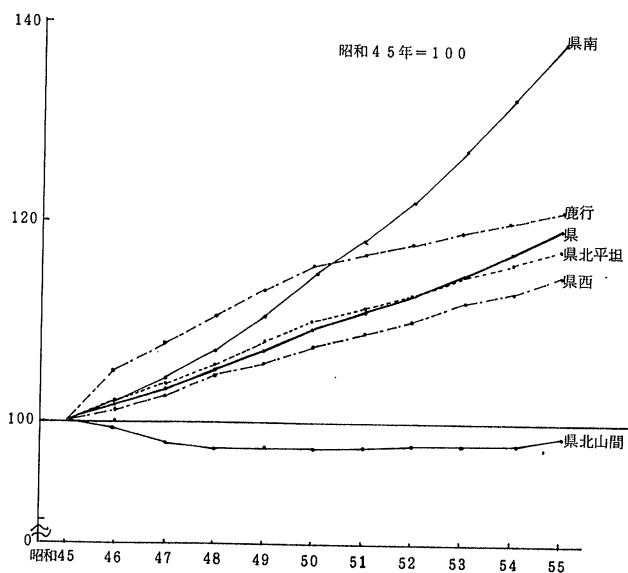
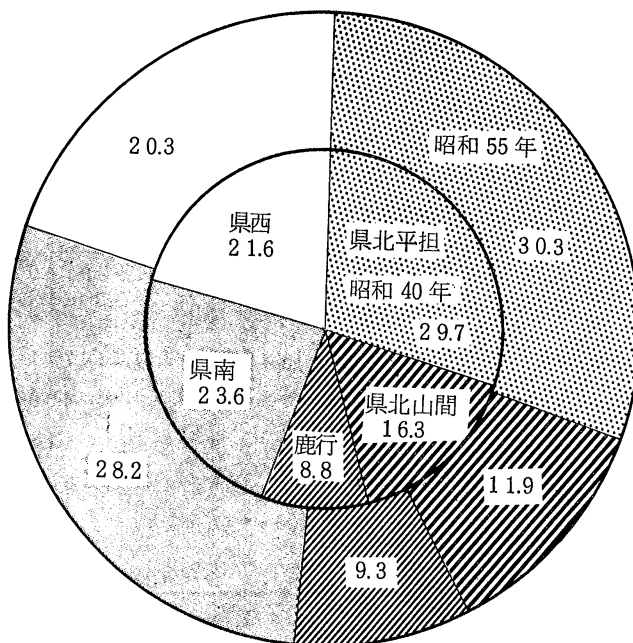


図8. 昭和40, 55年地域別人口分布



ウ 市郡別人口 ～市部は自然増加，郡部は社会増加が高い～

市部，郡部別の人口をみると，市部人口は1,249,736人，郡部の人口は1,316,341人となり，本県総人口に占める割合は市部で48.7%，郡部で51.3%で，郡部の割合がさらに高くなり，本県の特徴といえる。

これを前年同期と比較すると，増加は15市12郡で，減少は3市1郡となり，市部で15,161人（増加率1.2%），郡部で27,704人（増加率2.1%）増加している。増加率の高いのは北相馬郡8.9%，筑波郡4.9%，取手市4.6%，稲敷郡4.2%の順となり，減少は久慈郡1.3%，笠間市0.5%，那珂湊市0.3%，常陸太田市0.3%となっている。

増加の主な理由としては，首都通勤圏としてのベッドタウン化に伴う常磐線沿線の市部，郡部への人口流入等が人口増加の大きな理由と考えられる。（注）表4参照

人口10万以上の市部の人口増加率をみると，水戸市は1.3%で前年（1.8%）に比べ0.5ポイント低下したが，日立市は0.1%（前年0.0%），土浦市は1.6%（前年1.5%）と前年よりわづかながら伸びている。

市郡別の人口動態をみると，市部の自然増67.9%（前年69.6%），社会増32.1%（前年30.8%），郡部の自然増31.5%（前年30.4%），社会増68.5%（前年69.6%）の割合で市部では自然増加が，郡部では社会増加が高くなっている。

なお外国人は市部で4人減少，郡部で194人増加となっている。

参 照 統計表 第5表

表3 市郡別人口の推移

区 分		5 1	5 2	5 3	5 4	5 5
県	人 口(人)	2,387,470	2,425,327	2,472,359	2,520,740	2,566,077
	増加率(%)	1.5	1.6	1.9	2.0	1.8
市部	人 口(人)	1,180,604	1,198,300	1,217,477	1,234,771	1,249,736
	割 合(%)	49.5	49.4	49.2	49.0	48.7
	増加率(%)	1.3	1.5	1.6	1.4	1.2
郡部	人 口(人)	1,206,866	1,227,027	1,254,882	1,285,969	1,316,341
	割 合(%)	50.5	50.6	50.8	51.0	51.3
	増加率(%)	1.6	1.6	2.2	2.5	2.1

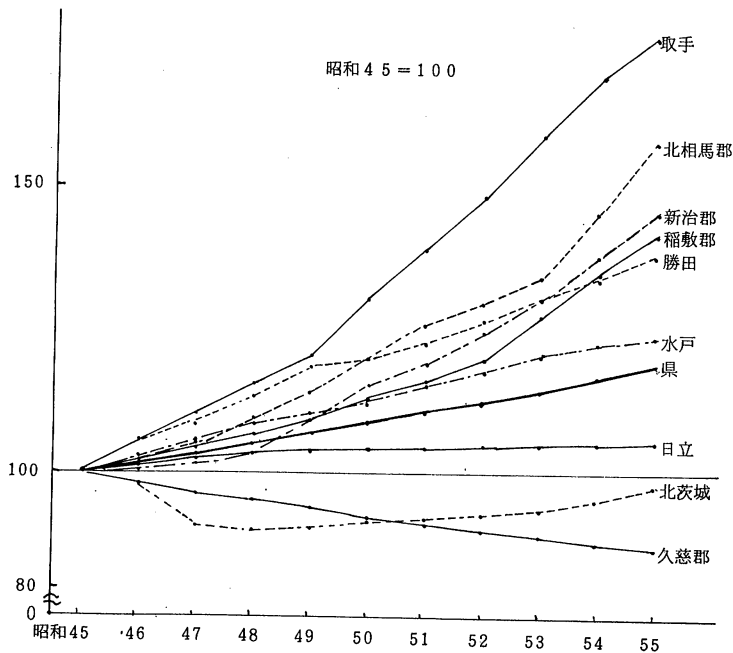
※各年12月末日現在推計人口

表4. 首都通勤圏にかかわる常磐線沿線市部郡部の人口増加数

(単位：人：%)

	市，郡	人口増加数	増加率	社会増加数	増加率		
常磐線沿線の市，郡	取手市	3,213	4.6	2,419	3.5		
	竜ヶ崎市	346	0.8	111	0.3		
	土浦市	1,785	1.6	766	0.7		
	北相馬郡	郡計	4,871	8.9	4,440	8.1	
		藤代町	1,524	6.0	1,351	5.4	
		守谷町	662	3.9	530	3.1	
		利根町	2,685	21.4	2,559	20.4	
	稲敷郡	郡計	6,464	4.2	5,368	3.5	
		うち 手 な 町 村	牛久町	3,313	8.8	2,963	7.9
			阿見町	721	2.2	478	1.5
			莒崎村	2,098	13.7	1,926	12.6
	計	16,679	3.9	13,104	3.0		
	その他の市郡		26,190	12.5	10,599	5.1	
	県全体		42,869	1.7	23,703	0.9	

図9. 主な市郡別人口指数



エ 男女別人口 ～女100人に対し男99人～

昭和56年1月1日現在の本県人口2,566,077人を男女別にみると、男1,276,311人、女1,289,766人となって、女の方が男より13,455人多く、性比は99.0となる。これは前年(98.9)をさらに上回って全国平均の96.9より2.1ポイント高く全国第6位である。

男の数が女を上回るのは4市19町で、桜村の129.7が最も性比が高く、次いで鹿島町111.6、小川町110.3、総和町107.6、谷田部町107.4の順となっており、筑波研究学園都市、鹿島臨海工業地帯、自衛隊基地等の市町村に比較的多く、一方性比が低いのは14市55町村で、瓜連町の88.6、桂村92.9、常陸太田市92.9、大洗町93.0、里美村93.3である。

昭和55年中の男女別動態をみると、社会動態においては、転入(男70,944人、女63,081人)、転出(男58,491人、女51,831人)ともにその割合は男53.0%、女47.0%となって、男の移動数が女を上回っている。また、自然動態では、出生(男18,286人、女17,426人)で、男51.3%、死亡(男9,014人、女7,722人)で男53.9%といづれも男の割合が女より多くなっている。

参 照

統計表 第5表

表5. 市，郡別性比

市,郡	年次				
	51	52	53	54	55
県	98.3	98.5	98.8	98.9	99.0
市 部	97.5	97.6	97.7	97.8	97.9
郡 部	99.1	99.5	99.8	100.1	99.9

※各年12月末日現在推計人口

表6. 市町村別人口の性比

性 比	市町村数	市 町 村 名							
110以上	3	桜 (129.7)	鹿島 (111.6)	小川 (110.3)					
1000~1099	20	総和 (107.6)	谷田部 (107.4)	千代田 (106.2)	神栖 (105.5)	東海 (104.6)	美浦 (104.3)	大穂 (103.4)	波崎 (103.1)
		勝田 (102.9)	守谷 (101.9)	莖崎 (101.7)	七会 (101.5)	阿見 (101.2)	日立 (101.2)	猿島 (100.9)	
		五霞 (100.5)	竜ヶ崎 (100.4)	内原 (100.2)	岩井 (100.0)	取手 (100.0)			
98.0~99.9	13	大野 (99.7)	牛久 (99.7)	三和 (99.2)	伊奈 (99.2)	北浦 (99.2)	境 (98.8)	茨城 (98.6)	
		大洋 (98.6)	土浦 (98.2)	関城 (98.2)	石下 (98.2)	八千代 (98.1)	利根 (98.0)		
96.0~97.9	31	河内 (97.9)	麻生 (97.9)	大和 (97.8)	江戸崎 (97.8)	美野里 (97.8)	八郷 (97.8)	玉里 (97.7)	
		新治 (97.6)	岩間 (97.6)	旭 (97.6)	谷和原 (97.5)	古河 (97.4)	藤代 (97.3)	千代川 (97.2)	
		水海道 (97.2)	結城 (97.2)	玉造 (97.2)	那珂 (97.1)	友部 (97.0)	豊里 (97.0)	明野 (97.0)	
		協和 (96.9)	下館 (96.9)	鉾田 (96.8)	下妻 (96.6)	高萩 (96.6)	出島 (96.5)	真壁 (96.3)	
		山方 (96.2)	東 (96.1)	常北 (96.0)					
94.0~95.9	18	石岡 (95.7)	美和 (95.6)	牛堀 (95.5)	岩瀬 (95.5)	潮来 (95.5)	北茨城 (95.5)	十王 (95.5)	
		緒川 (95.3)	新利根 (95.2)	御前山 (95.2)	水戸 (95.2)	金砂郷 (95.1)	常澄 (95.1)	大子 (95.1)	
		筑波 (94.9)	笠間 (94.8)	那珂湊 (94.4)	水府 (94.0)				
92.0~93.9	6	桜川 (93.9)	大宮 (93.4)	里美 (93.3)	大洗 (93.0)	常陸太田 (92.9)	桂 (92.9)		
91.9以下	1	瓜連 (88.6)							

※女100人に対する男の比

2 人口動態

(1) 自然動態 ～41年のヒノエウマの年に次ぐ低出生率～

昭和55年中の自然増加は18,976人(男9,272人,女9,704人)で,増加率は0.8%である。これの内訳をみると,出生は35,712人(男18,286人,女17,426人),死亡16,736人(男9,014人,女7,722人)となっている。

この自然増加の推移をみると,出生については昭和48年をピークとしてその後減少を続けており,48年の出生率18.9‰に比較すると本年の出生率はこれを4.7ポイント低下の14.2‰となった。これは41年のヒノエウマの年の出生率12.1‰に次いで低いものとなった。一方,死亡については昭和46年以降年々減少傾向を示していたが本年はわずかながら前年(6.5‰)を上回り,6.6‰の死亡率となっている。

自然増加を市郡別にみると,市部の増加は前年(11,956人)に比べ1,656人減少の10,300人(増加率0.8%),郡部は前年(9,402人)に比べ726人減少の8,676人(増加率0.7%)となっている。これを出生,死亡別にみると,出生率では市部14.1‰(前年15.5‰),郡部14.2‰(前年14.8‰)となり,前年よりいずれも低下している。また死亡率では市部5.8‰(前年5.6‰),郡部7.5‰(前年7.3‰)となって前年を上回る結果となっている。

地域別の動態では,自然増が前年より増加した地域は,県南(1,059人増5,493人),県西(139人増3,825人)となり,減少した地域は県北平担(1,114人減6,569人)鹿行(230人減2,154人),県北山間(144人減935人)となっており,前年増加した鹿行(29人増)は本年は減少となった。これを出生,死亡別にみると,出生率では鹿行16.1‰(前年16.7‰),県西14.7‰(前年15.7‰),県南14.3‰(前年15.1‰),県北平担14.0‰(前年15.4‰),県北山間12.0‰(前年12.1‰)の順となり,最も出生率の高い鹿行は鹿島郡が17.0‰と高い率となっている。一方死亡率は県北山間が8.9‰(前年8.6‰)と最も高く,以下県西7.3‰(前年7.1‰),鹿行7.0‰(前年8.6‰),県南6.4‰(前年6.4‰),県北平担5.4‰(前年5.3‰)の順となっている。

なお県内92市町村のうち自然増加したのは84市町村(前年86),減少したのは8町村(前年6)である。

参 照

統計表 第3表 第5表

表7. 自然増加率の高い市町村（1.1%以上）

（単位：人，%）

市 町 村	自然増加数	自然増加率	出生率 (‰)	死亡率 (‰)
鹿 島 町	6 2 1	1.6	2 1.2	5.1
千代田村	2 9 9	1.5	2 0.8	6.2
桜 村	4 5 8	1.5	1 8.4	3.7
勝 田 市	1,1 4 5	1.3	1 6.4	3.8
神 栖 町	3 9 9	1.2	1 6.8	4.6
取 手 市	7 9 3	1.1	1 5.3	3.9
総 和 町	3 7 5	1.1	1 6.0	5.5
莖 崎 村	1 7 1	1.1	1 6.4	5.2

※ 外国人は含まない。

表8. 自然増加率の低い町村（0.0%以下）

（単位：人，%）

町 村	自然増加数	自然増加率	出生率 (‰)	死亡率 (‰)
水 府 村	△ 3 5	△ 0.5	7.3	1 1.8
瓜 連 町	△ 2 7	△ 0.4	7.3	1 1.1
緒 川 村	△ 2 0	△ 0.4	8.4	1 2.1
金砂郷村	△ 3 3	△ 0.3	6.8	9.8
桂 村	△ 1 3	△ 0.2	9.4	1 1.3
美 和 村	△ 1 2	△ 0.2	1 0.2	1 2.2
御前山村	△ 4	△ 0.1	1 0.6	1 1.4

※ 外国人は含まない。

表9. 地域別・自然増加，出生，死亡数

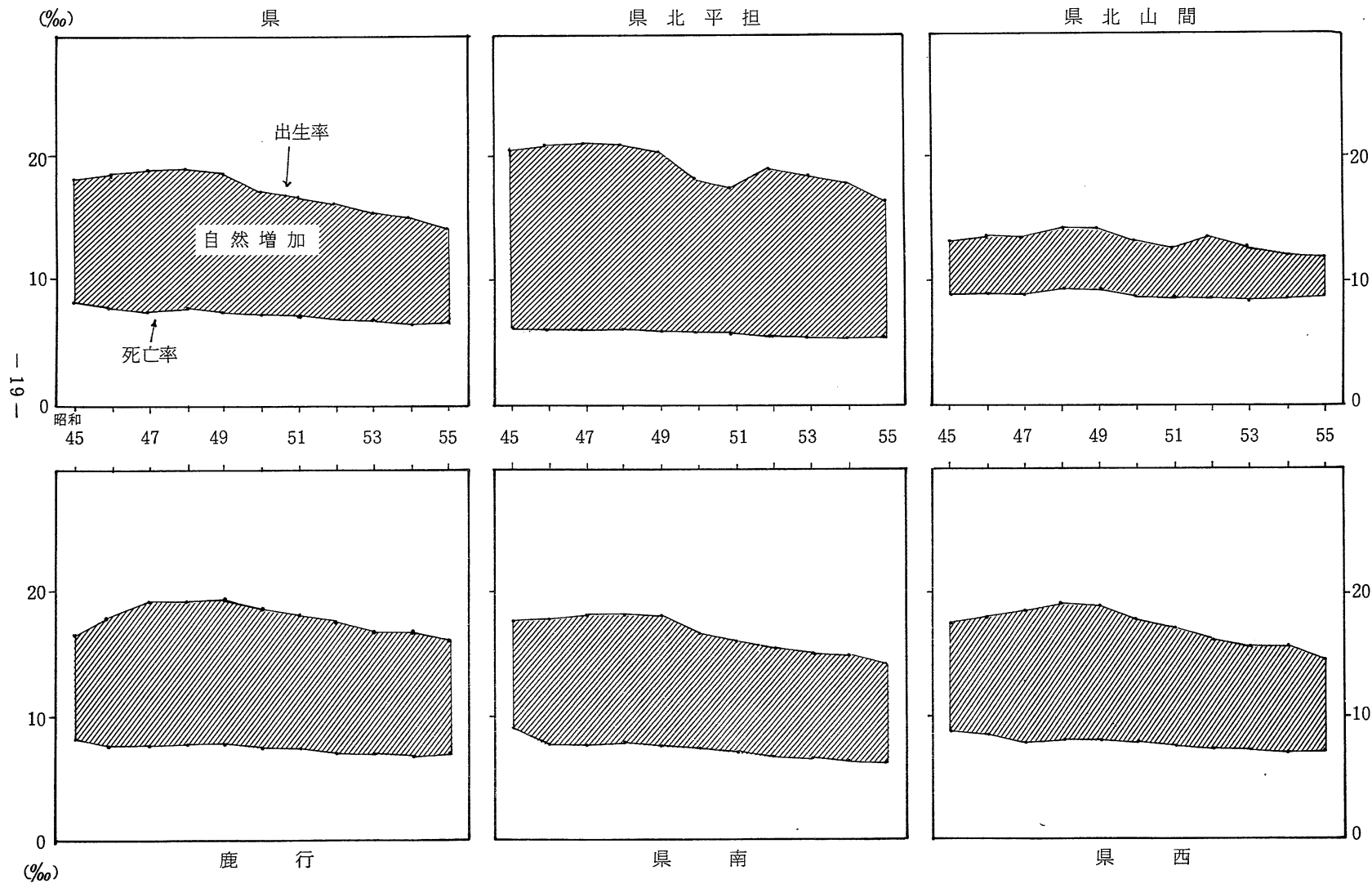
(単位：人：‰)

地域	51年			52年			53年			54年			55年			
	自然増加	出生	死亡	自然増加	出生	死亡	自然増加	出生	死亡	自然増加	出生	死亡	自然増加	出生	死亡	
県	人員	22,713	39,393	16,680	22,214	38,469	16,255	21,553	37,938	16,385	21,358	37,394	16,036	18,976	35,712	16,736
	率	1.0	16.5	7.0	0.9	15.9	6.7	0.9	15.4	6.7	0.9	15.1	6.5	0.8	14.2	6.6
県北平担	人員	8,743	12,960	4,217	8,272	12,390	4,118	8,068	12,176	4,108	7,683	11,748	4,065	6,569	10,759	4,190
	率	1.2	17.5	6.0	1.1	16.6	5.5	1.1	16.0	5.4	1.0	15.4	5.3	0.9	14.0	5.4
県北山間	人員	1,185	3,839	2,654	1,381	3,965	2,584	1,271	3,845	2,574	1,079	3,673	2,594	935	3,633	2,698
	率	0.4	12.7	8.8	0.5	13.1	8.6	0.4	12.7	8.5	0.4	12.1	8.6	0.3	12.0	8.9
鹿行	人員	2,500	4,150	1,650	2,468	4,067	1,599	2,355	3,938	1,583	2,384	3,930	1,546	2,154	3,818	1,664
	率	1.1	18.0	7.2	1.1	17.5	6.9	1.0	16.8	6.8	1.0	16.7	6.6	0.9	16.1	7.0
県南	人員	5,496	9,873	4,377	5,610	9,820	4,210	5,508	9,942	4,434	5,809	10,043	4,234	5,493	9,926	4,433
	率	0.9	16.0	7.1	0.9	15.5	6.7	0.8	15.1	6.7	0.9	15.1	6.4	0.8	14.3	6.4
県西	人員	4,789	8,571	3,782	4,483	8,227	3,744	4,351	8,037	3,686	4,403	8,000	3,597	3,825	7,576	3,751
	率	1.0	17.3	7.6	0.9	16.4	7.5	0.9	15.8	7.3	0.9	15.7	7.1	0.7	14.7	7.3

※ 外国人は含まない。

(注) 自然増加率は‰である。

図10 地域別自然動態（昭和45～55年）



(2) 社会動態

ア 社会動態の推移 ～増加を続ける県南の社会増～

昭和55年中の社会動態をみると、移動総数244,347人（転入134,025人、転出110,322人）で、前年（250,800人）に比較して6,453人の減少となっている。

年次別推移をみると、昭和30年後半から42年までの社会動態は転出超過であったが、43年に転入超過となって社会増に転じ、更に53年には社会増加が自然増加を上回り、社会増加が本県の人口急増の要因となっている。

県人口に対する55年中の社会増加率は0.9%で、人口増加総数の55.3%にあたる。

社会増加の主な原因としては、県南の人口急増に伴うもので、1の(2)のウ、「市郡別人口」で述べたように、首都通勤圏としての県南への人口流入増によるものと考えられる。

本県5地域別の移動数をみると、県南が県全体の36.4%を占め、次いで県北平担の30.0%、県西15.2%、鹿行9.5%、県北山間8.9%の順となっている。また社会増加率では、県南が3.0%（前年3.8%）と前年に引き続いて高く、前年転出超過であった鹿行（前年△0.2%）は転入超過（0.4%）に転じている。

表10. 地域別社会動態の状況

（単位：人：%）

地 域	昭和56年1月1日	移動数	移動率	社 会 増加数	社 会 増加率	昭 和 5 4 年		
	現 在 人 口					社会増加数	社会増加率	
県	2,566,077	244,347	19.5	23,703	0.9	26,696	1.1	
県北平担	778,615	73,246	9.5	792	0.1	1,380	0.2	
県北山間	305,126	21,813	7.2	△643	△0.2	△1,002	△0.3	
鹿行	238,970	23,080	9.8	886	0.4	△476	△0.2	
県南	723,193	89,026	12.8	20,726	3.0	25,416	3.8	
主な増加市町村	学園都市 関係町村	128,261	21,109	17.6	6,981	5.8	11,588	10.8
	取手市	71,953	11,051	15.9	2,419	3.5	3,460	5.3
	牛久町	40,832	6,235	16.6	2,963	7.9	2,758	8.0
	藤代町	26,577	3,639	14.4	1,351	5.4	1,704	7.3
	利根町	15,110	3,637	28.9	2,559	20.4	1,634	15.1
	伊奈村	22,509	3,235	15.8	1,895	9.2	1,590	8.5
県西	520,173	37,182	7.2	1,942	0.4	1,378	0.3	

なお、昭和54年中の全国の移動状況をみると、転入超過は21県で、他の26都道府県は転出超過となっている。社会増加の最も高い県は奈良県の1.9%、以下千葉県1.5%、茨城県1.0%、埼玉県0.9%、滋賀県0.9%と、東京や大阪周辺の県が上位を占めている。一方減少都道府県をみると、東京都(1.1%)、長崎県(0.6%)、大阪府(0.4%)、岩手県(0.4%)、秋田県(0.4%)の順となり、特に東京都の社会減少率は48年以降全国一を続けている。

参 照

統計表 第4表 第5表

イ 転入・転出 ～東京・千葉との交流が45%～

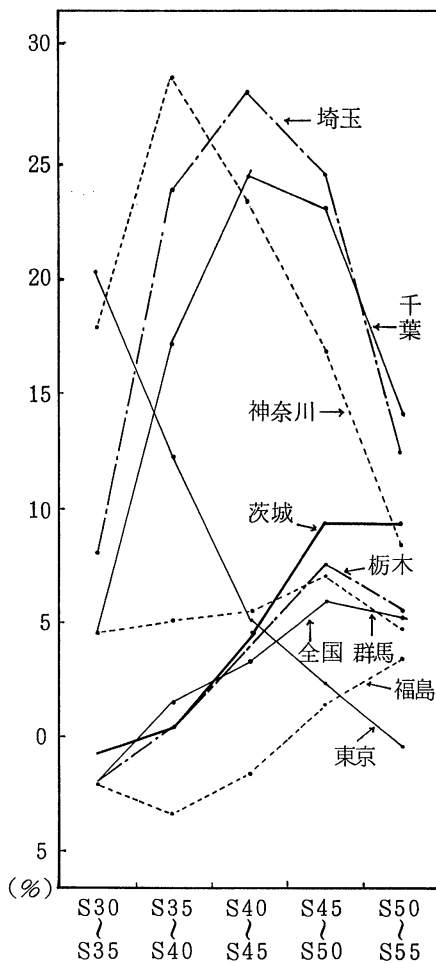
昭和55年中の移動総数244,347人のうち、県外との交流は55.7%にあたり、移動数は136,218人(転入79,933人、転出56,285人)で、転入差引増減は23,648人の転入超過となり、前年(転入超過26,696人)に比べ3,366人の減少となっている。

県外のうち、関東近県との移動状況をみると、交流が最も多いのは東京都で、県外移動総数の28.7%(39,087人)となり、次いで千葉県の16.5%(22,523人)、神奈川県11.1%(15,156人)、埼玉県10.4%(14,188人)、栃木県4.9%(6,696人)となっている。

地域別にみると、県南が42.1%(57,369人)を占め前年に引き続いて最も高く、県北平担25.4%(34,553人)、県西16.2%(21,971人)、鹿行9.6%(13,083人)、県北山間6.8%(9,242人)の順となっている。

人口移動を月別にみると、進学、就職及び勤労者の転勤期である3～4月が例年の

図 11 近県の人口増加率調



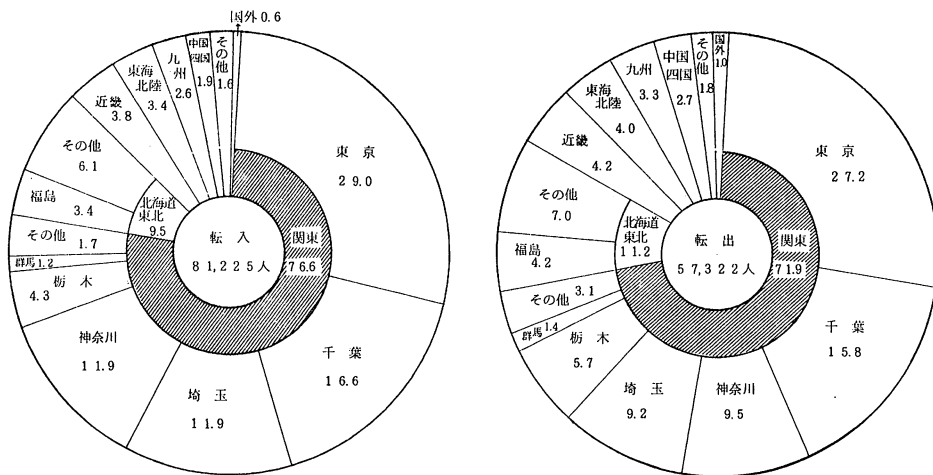
資料 総理府統計局
「昭和55年国勢調査
(要計表による人口)」

とおり最も多く、他の月はほぼ平均化した動きとなっている。

市町村別の社会動態をみると、転入超過は11市40町村で、県南4市17町村、県北平担2市9町村、県西4市6町村、鹿行6町村、県北山間1市2町村と、県南、県北平担及び県西の市町村に多く、また増加率の高い市町村は、利根町（20.4%）が最も高く、以下荃崎村（12.6%）、伊奈村（9.2%）、桜村（9.0%）、谷田部町（8.0%）、牛久町（7.9%）、藤代町（5.4%）の順となり、いずれも首都通勤圏域並びに筑波研究学園都市としての人口流入によるものが多い。また転出超過は7市34町村で、県北山間3市12町村、県西2市7町村、県南7町村、鹿行6町村、県北平担2市2町村となり、社会減少の多い市町村は里美村（1.4%）、大洗町（1.3%）、大子町（1.2%）、美和村（1.2%）、水府村（1.1%）の順で、県北山間部に多い。

参照 統計表 第7表

図12 昭和55年県外転入出先別移動人員割合



- 北海道・東北：青森，岩手，宮城，秋田
山形，福島
- 関東：栃木，群馬，埼玉，千葉
東京，神奈川，山梨，長野
静岡
- 東海・北陸：新潟，富山，石川，岐阜
愛知，三重

- 近畿：福井，滋賀，京都，大阪
兵庫，奈良，和歌山
- 中国・四国：鳥取，島根，岡山，広島
山口，徳島，香川，愛媛
高知
- 九州：福岡，佐賀，長崎，熊本
大分，宮崎，鹿児島，沖縄

表 1 1. 地域別にみた主な県外との移動状況

(単位：人：%)

地 域		県外総数	東京都	千葉県	神奈川県	埼玉県	栃木県	福島県	群馬県	その他
県	移動数	136,218	39,087	22,523	15,156	14,188	6,696	5,190	1,761	31,617
	割合	100.0	28.7	16.6	11.1	10.4	4.9	3.8	1.3	23.2
県北 平担	移動数	34,553	9,215	3,837	3,932	2,855	1,410	2,587	569	10,148
	割合	100.0	26.7	11.1	11.4	8.3	4.1	7.5	1.6	29.3
県北 山間	移動数	9,242	3,070	890	1,387	887	623	990	130	1,265
	割合	100.0	33.2	9.6	15.0	9.6	6.8	10.7	1.4	13.7
鹿行	移動数	13,083	2,987	3,522	1,428	708	136	219	88	3,995
	割合	100.0	22.8	26.9	10.9	5.4	1.0	1.7	0.7	30.6
県南	移動数	57,369	18,169	12,113	6,551	5,446	947	978	609	12,556
	割合	100.0	31.7	21.1	11.4	9.5	1.7	1.7	1.1	21.8
県西	移動数	21,971	5,646	2,161	1,858	4,292	3,580	416	365	3,653
	割合	100.0	25.7	9.8	8.5	19.5	16.3	1.9	1.7	16.6

図 1 3 昭和 5 5 年月別転入転出状況

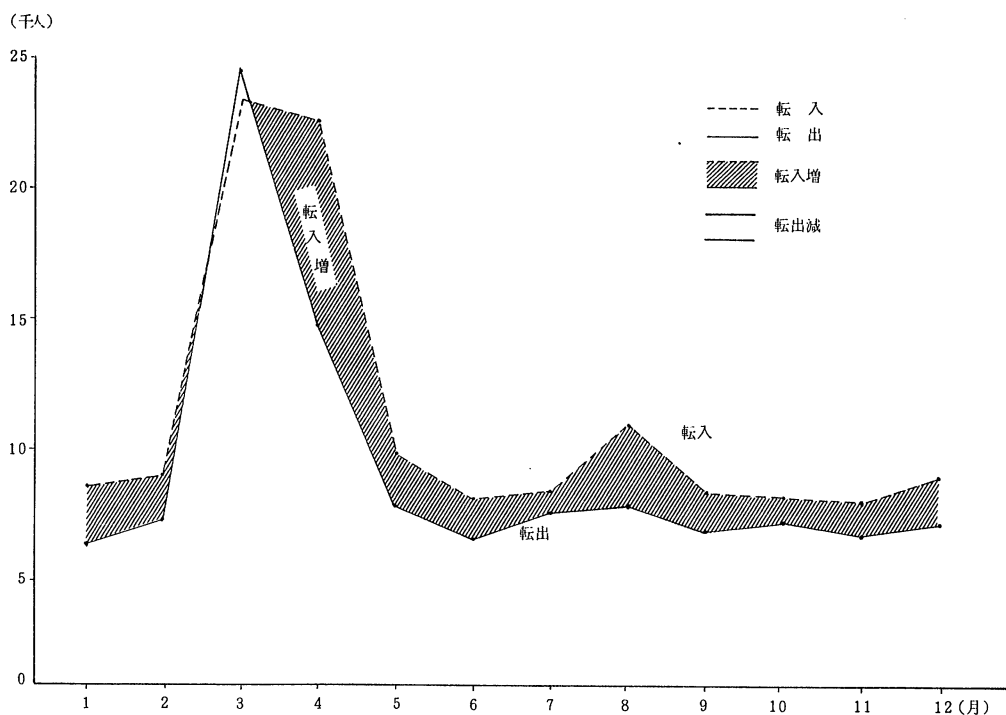


表 1.2. 地域別・社会増加，転入，転出者数

(単位：人・%)

地 域	5 1 年			5 2 年			5 3 年			5 4 年			5 5 年			
	社会増加	転 入	転 出	社会増加	転 入	転 出	社会増加	転 入	転 出	社会増加	転 入	転 出	社会増加	転 入	転 出	
県	人数	12,661	124,795	112,134	15,344	125,809	110,465	25,400	133,838	108,438	26,696	138,748	112,052	23,703	134,025	110,322
	%	0.5			0.6			1.0			1.1			0.9		
県北 平担	人数	623	32,547	38,167	2,063	38,973	36,910	2,628	39,449	36,821	1,380	38,829	37,449	792	37,019	36,227
	%	0.1			0.3			0.3			0.2			0.1		
県北 山間	人数	△ 504	17,967	12,228	△ 1,170	11,675	12,845	△ 1,182	10,831	12,013	△ 1,002	11,094	12,096	△ 643	10,585	11,228
	%	△ 0.2			△ 0.4			△ 0.4			△ 0.3			△ 0.2		
鹿行	人数	△ 166	13,136	13,302	△ 508	11,858	12,366	△ 104	11,503	11,607	△ 476	11,174	11,650	886	11,983	11,097
	%	△ 0.1			△ 0.2			△ 0.0			△ 0.2			0.4		
県南	人数	11,348	40,399	29,051	13,546	42,795	29,249	21,768	51,029	29,261	25,416	58,190	32,774	20,726	54,876	34,150
	%	1.8			2.1			3.3			3.8			3.0		
県西	人数	1,360	20,746	19,386	1,413	20,508	19,095	2,290	21,026	18,736	1,378	19,461	18,083	1,942	19,562	17,620
	%	0.3			0.3			0.5			0.3			0.4		

※ 外国人を含まない。

ウ 年令階層別状況 ～15～24才は転出超過～

移動者の年令階層別では、総数244,347人のうち25～64才が114,393人で4.68%、15～24才が71,529人2.93%、0～14才が51,985人2.13%、65才以上6,440人2.6%となっている。

これを転入、転出でみると、15～24才階層が転出超過(649人)となっているが、他の階層はどれも転入超過である。

地域別にみると、移動数において各年令階層ともに県南が他の地域を大中に上回っている。転出超過となっている15～24才階層では、県北山間(1,746人) 県西(832人) 鹿行(77人)が転出超過であり、県南及び県北平担は転入超過となっている。また、鹿行は前年0～14才、15～24才が転出超過であったが今回は15～24才のみとなり、県北山間は前年に引き続き15～24才で、大巾な転出超過であり、65才以上階層でも若干の転出超過となっている。

参 照

統計表 第6表

表13. 年令階層別転入転出状況

(単位：人：%)

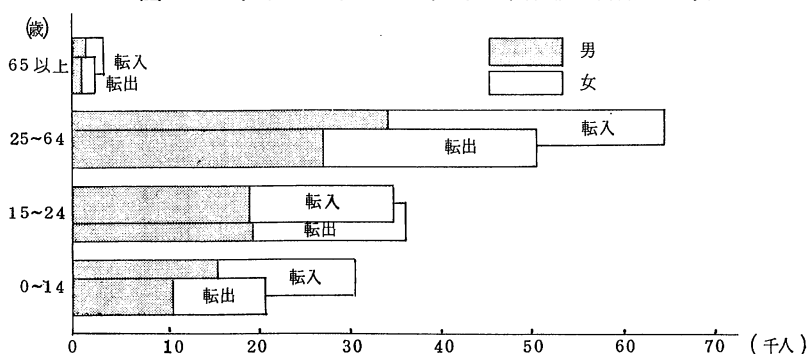
年 齢 階 層	移動総数	移動割合	転 入	転 出	社会増加数	増加割合	性 比
総 計	244,347	100.0	134,025	110,322	23,703	100.0	112.6
0 ～ 14歳	51,985	21.3	30,707	21,278	9,429	39.8	103.1
15 ～ 24 "	71,529	29.3	35,440	36,089	△649	△2.8	117.3
25 ～ 64 "	114,393	46.8	64,280	50,113	14,167	59.8	118.5
65 歳 以 上	6,440	2.6	3,598	2,842	756	3.2	59.2

表14. 地域別にみた年令階層別移動状況

(単位：人)

年令階層	区域	県	県北平担	県北山間	鹿 行	県 南	県 西
移 動 総 数		244,347	73,246	21,813	23,080	89,026	37,182
0 ～ 14歳		51,985	14,900	3,528	4,845	21,302	7,410
15 ～ 24歳		71,529	22,599	8,154	6,965	21,573	12,238
25 ～ 64歳		114,393	33,918	9,396	10,748	43,668	16,663
65 歳 以 上		6,440	1,829	735	522	2,483	871

図 15. 年齢階層別，男女別，転入出状況（昭和 55 年）



3 世 帯

(1) 世帯数の推移 ~ 1 世帯当り人員は年々減少 ~

昭和 56 年 1 月 1 日現在の世帯数は 695,010 世帯であり，10 年前の昭和 45 年（490,120 世帯）に比べ 204,890 世帯，29.5% 増加している。この 10 年間の本県人口の増加率は 18.4% であるから，世帯の伸びは人口の伸びを相当上回っている。

また 1 世帯当り人員の推移では，昭和 45 年は 4 人台であったが，51 年にはじめて 3.95 人と 3 人台に減り以降わづかではあるが減少傾向をたどり，本年は 3.69 人となっている。

(2) 昭和 55 年の世帯数 ~ 1 世帯当り人員 3.69 人 ~

昭和 56 年 1 月 1 日現在の世帯数は 695,010 世帯で前年（679,531 世帯）に比べ 15,479 世帯（増加率 2.3%）増加した。これは前年の増加数 18,682 世帯より 3,203 世帯減少となっている。

世帯数を地域別にみると，県北平担 228,006 世帯（構成比 32.8%），県南 196,110 世帯（28.2%），県西 127,456 世帯（18.3%），県北山間 80,752 世帯（11.6%），鹿行 62,686 世帯（9.0%）の順となっている。これを前年比でみると，県南 9,111 世帯（5.0%），県北平担 3,692 世帯（1.7%），鹿行 1,302 世帯（2.3%），県西 2,073 世帯（1.7%），県北山間 804 世帯（1.0%）とそれぞれ増加している。

なお 1 世帯当りの人員では県平均で 3.69 人となり，県西（4.08 人），鹿行（3.81 人），県北山間（3.77 人）と県平均を上回っているが，県北平担（3.41 人），県南（3.68 人）は県平均を下回っている。

注) 会社，官公庁等の独身寮に住んでいる人については，前回は棟ごとにまとめて一つの世帯としていたが，今回は一人一人をそれぞれ一つの世帯として調査した。昭和 45 年，50 年の世帯数は 55 年の定義に基づいて組み替えてある。

参 照

統計表 第 2 表

図 1 5 1世帯当り人員と世帯数の移りかわり

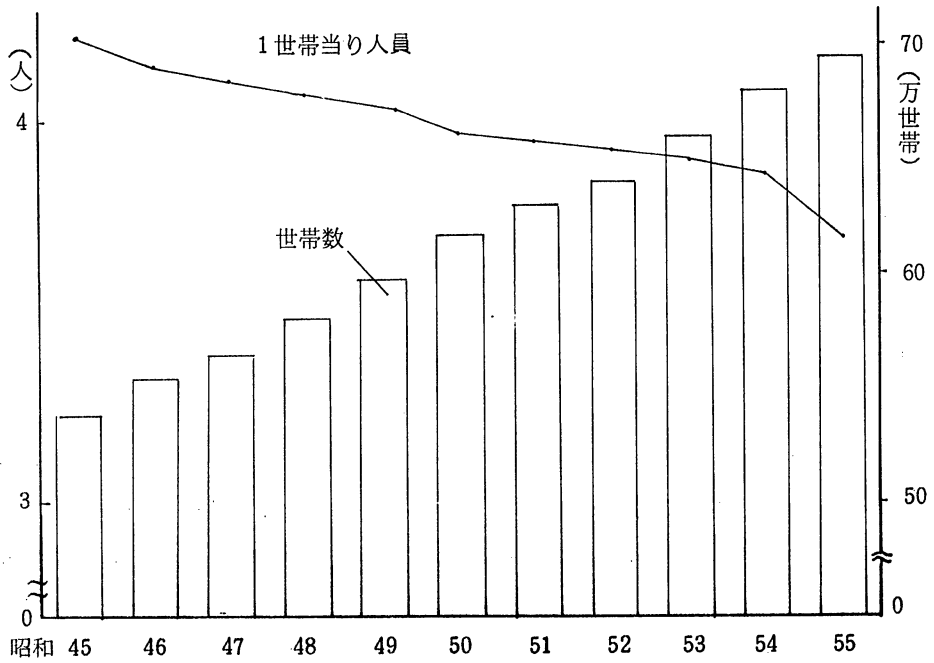


図 1 6 地域別世帯数の推移

